
バカと不良と車椅子少女

西野二伸

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

バカと不良と車椅子少女

【Nコード】

N9905Y

【作者名】

西野二伸

【あらすじ】

文月学園の姉妹校である水無月学園。ここには文月学園と同様の召喚システムが導入されている。完全オリジナルストーリーでお送りするバカテスをお楽しみください。

プロローグ

一時間目、数学試験

これが難しいと噂の振り分け試験

確かに難しいが問題無い。この程度ならDクラス以上は取れるだろう。

俺は最初に自分の名前『五月女伸二』を答案用紙に書く。

得意な数学問題を次々と解いていく。

現代国語や古文が苦手な俺は理数系に的を絞ってこの日の為に勉強してきた。

今日は調子良い。

次々と数学の答えがパツと頭に浮かぶ。

俺はチラッと右横の風華に視線を向ける。

風華のペンは走っている。

風華ならいつもの成績でAクラスに悠々と入れるだろう。

試験監督の先生、今回は大和田先生が生徒の横を通り過ぎていった。

すると、風華の横に大和田先生が止まった。

「机の中の物を出しなさい」

「え？」

困惑した様子の風華を余所よそに大和田先生は無理矢理風華の車椅子を引き、机の中に手を突っ込む。

机の中から出て来た大和田先生の手には、一枚の紙が握り潰されていた。

それを堂々と試験を受ける生徒の前で広げた。

「おやおや？ これは何かの方程式でないか？ これはどういう事だ、風華？」

風華は目を白黒させる。戸惑いではない、ただ驚いている。

「……知りません」

「何が知りませんだ！ こっちに来なさい」

風華は為す統なべなく大和田先生に連れて行かれる。

「ちょっと待ってくださいよ、大和田先生」

俺は立ち上がり、大和田先生の前まへの道を阻む。

「なんだね、君は？」

明らかにイラついた様子の大和田先生。

「それって、本当に風華の物ですか？」

大和田先生の手を持つ紙を指でさす。

「なんだね？ 僕を疑っているのか？」

「いえ、疑ってはいない」

「だったら黙って居ろ！！ 貴様もカンニングと見なすぞ！！」

険しい剣幕で俺に命令する大和田先生。

「やめろ、伸二。私は大丈夫だ。お前は自分の試験の心配しろ」

「風華、わかったよ」

俺は風華の言うまま数学のテストを受ける。

大和田先生と風華が居なくなつて数分後、別の試験監督が入つて来た。

「ありがとう、その、……五月女君」

「礼をさせられる程の事はしてないよ。ただ俺が暴れたかっただけだし」

「でも、その暴れてくれたおかげで、私の処女は護られたわ。あんな気持ち悪い不良の手　ポに犯されずに」

「お前少しは恥じらいを持ってよ。女の子がチ　ポとか言っちゃダメ」

「そうね。私は貴方から見れば女の子だもんね」

「誰がどう見ても女の子だろ。俺的には美少女って感じだな」

「その言葉、もしかして口説いてるの」

「なんで口や鼻から血を出して頬を腫らしている顔で口説くんだよ。パツと見、俺負け面だよな？」

「勝ったじゃない。奇跡的に十人相手に」

「十人じゃなくて八人だよ。しかも相手は丸腰で、俺は木の棒持ってたし」

「でも最後の三人は素手で倒したでしょ？」

「いや、木の棒が折れて三人にリンチされるとは恥ずかしいな」

「そこから巻き返したので帳消しよ」

「そうか？　ま、そういう事にすっか。あー痛ー」

「大丈夫？ 肩貸す？」

「女の子の肩を血で濡らす訳にはいかないから遠慮する」

「格好付けなくていいから。ほら」

「男は美しい女、詰まる所美女の前では格好付けたい生き物なの。それぐらい察してくれ」

「男って最低ね」

「それが男です。コーヒーのCMでもあつたら？ 男は女に弱くて、男はサイテーで、男はサイコ だって。楽しいよ？ 男」

「馬鹿ね。男って最低の馬鹿。レイプしようとする奴も、五月女君も。五月女君の馬鹿は違う意味でだけど」

「男ですみません」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9905y/>

バカと不良と車椅子少女

2011年11月29日22時49分発行